

町田通勤寮だより

NO 61

2017年 1月

社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮

〒194-0045

東京都町田市南成瀬1-5-3

電話 042 (739) 0491

巻頭言

今年もよろしくお願いいたします。

早いものでまたこの挨拶を交わす時期になりました。私は、その前段にある「お世話になりました。」という言葉に心を込めてこの挨拶を交わしたいと思っています。通勤寮が民間移譲されて今年度が始まりました。なかなか順調な滑り出しとは言い難い部分もありますが、この9カ月に経験したことを糧として、これからの通勤寮運営に臨んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

寮長 三階 広明

さて、昨年の11月17日～18日と北海道の旭川で開催された、全国宿泊型自立訓練事業等（旧通勤寮）職員研究大会に参加してまいりました。通勤寮が事業変更や廃止により年々減少し、今年度の参加は18事業所となり参加者は関係機関の方々を含め40名でした。

（昨年4月時点で通勤寮は36カ所です。全国で130カ所程の頃を知っている者としては、年々通勤寮が減っていくのは寂しい限りです。）

テーマは「自立への挑戦はこの40年で進んだか？～共生社会の実現に

向け、改めて宿泊型自立訓練事業の役割を確認しよう」とでした。

1日目は、全国事務局報告（実態調査報告）、シンポジウム（養護学校、保護者、相談機関それぞれの立場から通勤寮に期待するもの）、実践報告（自立サポートセンター歩（横浜市）、江東通勤寮）。

2日目は、実践報告（旭川通勤寮サポート22）、基調講演（胆振圏域障がい者総合相談支援センターるびなす所長小林繁一氏）テーマ「通勤寮の歩んできた地域生活支援の道と宿泊型自立訓練事業のこれから」（通常の研修会等では初日にあるのですが、講師の都合により2日目になりました。）

研修終了後に、希望者は旭川ラーメンと施設見学（旭川通勤寮サポート22とグループホーム）のツアーに参加しました。ご存じのとおり今年の旭川は旭川の施設長さんも記憶にないという程、例年になく早い雪で、暖かかった東京から行った私には想像以上の風景でした。

研修会を通じて感じたのは「通勤寮」に対する『期待』と、それぞれの通勤寮で様々な課題に取り組んでいる『熱意』です。障害者福祉の制度が変わる中で、国基準の補助金では経営が厳しく、各法人が様々な努力をして通勤寮を運営しています。通勤寮だからできること、通勤寮にしかできないことに『プライド』を持って、これからも諸課題に取り組んでいきたいと思えます。

地域生活援助センター・フクミアより

平成20年5月1日、法人事業として「地域生活援助センター」が開設し早くも9年近くが経過しました。利用者さんも年々増加し現在は71名といった大所帯となっています。

センター長 市川 嘉

行政が考えているグループホームは、基本的に重度障害をお持ちの方が利用されるべきであり、軽度障害の方は進んで「地域生活(単身生活)」を送るべきとの見解なのです。

現在、「フクシア」を利用されている方のほとんどが軽度知的障害の方々です。ということは、地域で生活をするべきとの考え方が行政なのです。現在のシステムは一度グループホームの入所した場合、ご本人が希望すれば年齢に関係なく在籍できるシステムなのです。ご本人はもとよりご家族にとつては簡単に地域に出ることは望まないのです。地域で上手いことなく戻りたいと言っても戻れないのが現状であるからです。

今後「フクシア」は毎年受け入れて大所帯にしていくばかりではなく、サテライト型住居などを駆使して、地域に送り出すことも計画していかなくてはならないと考えています。

地域支援分科会学習会(東京育成園見学会)

サービス管理責任者・主任支援員 谷本 洋

地域支援分科会は、都内通勤者及び地域支援に携わる事業所を対象とし、年に二回の学習会を企画、谷本も幹事の一人として運営に携わっています。

今年度第一回目の学習会は東急田園都市線駒澤大学駅近くにある児童養護施設「東京育成園」の見学会を開催いたしました。東京育成園は明治32年に創立された、伝統ある児童養護施設です。近年は児童養護施設から通勤者を利用されるケースが増加の傾向にあります。児童から成人へと、

人生の分岐点に差し掛かる大切なポイントを支援する我々通勤者としては、これまで歩んでこられた児童養護施設での生活環境・状況を熟知することは、今後の支援に向けて大きな糧となり、また支援の方向性を定める財産となります。言うまでもなく一人一人の利用者を支援するにあたり、彼らの抱えるバックグラウンドを把握することはとても大切なことです。そのためにも各々の制度の違いや、支援のプロセスなどを双方理解し合うことが重要となります。

地域支援分科会の学習会という名目ではありましたが、児童養護施設側からも通勤者の支援についての質問が投げかけられるなど、双方にとって有意義な時間となりました。また、東京育成園の入所児個々のお気持ちやプライバシーに配慮した援助および将来の自立を見据えた細やかなプログラム等、とても勉強となる見学会になりました。

終了後は懇親会を開き、ざつくばらんにお互いの仕事について語り合う場も設けられ、支援に対する様々な思いや現状を共有できました。今後このような機会を設けると共に切磋琢磨し合いながらより充実した支援・連携につなげていきたいと思えます。非常にご多忙の中、親切丁寧にご対応いただいた東京育成園の職員の皆様には深く感謝申し上げます。

スピーチフォーラムinとちぎ レポート

就労・震災分科会・懇親会

支援員 入江 就仁

11月12・13日の2日間、栃木・鬼怒川温泉ホテル三日月にてスピー

チフォーラム栃木大会が開催され、私は主に仕事をテーマとした第1分科会と震災をテーマとした第3分科会に参加させていただきました。

第1分科会では日頃より取り組んでいる就労の様子を、報告し合って交流を深めるものでした。発表者として町田通勤寮在籍の橋本恭輔さんが壇上に立ち、現在の就労状況・志望動機・将来の夢等を誠実に発表してくれました。発表に関する反響がとて多く、他発表者も2名居たのですが、橋本さんの発表に一番質問が集中しており、橋本さんも質問に対して言葉を選びながら丁寧に返答しておられました。

第3分科会では震災に関するテーマで参加者が「震災における教訓を生かし、生活を送る」を念頭に置き、討議を行いました。昨今、東日本大震災・2016年熊本地震により甚大な被害を受けた事は記憶に新しいことと思います。いつ、この時においても震災が身近なものになるか分からない中で、震災の被害を受けた際、①ガス②水道③電気の3点で一番先に復旧してもらいたいライフラインは？というテーマでグループワークを行いました。参加者より様々な意見がある中で、一番意見として多かったのは水道でした。意見として「トイレをする際に必要」「衣類等を洗う事ができる、入浴できる」もありながら、中には震災体験者の方から「生きる上でかかせないもの」と話しがあがり、より現実味を帯びた意見にかなり心を打たれ、改めて震災への備えが生きる上でいかに重要なことであるかを考えさせられる分科会でした。11月末にも福島県で震度5の地震が発生し、東日本大震災の余震活動と指摘もあります。我々は常に地震大国である日本で生活しているという認識を忘れずこれまでの教訓を生かし、備えることが重要です。

懇親会では各分科会で参加された方が一同に集まり、懐石料理を堪能しながら交流を深めました。毎年恒例である名刺交換では他事業所の方が積極的に参加する中、町田通勤寮の利用者の皆様は場の雰囲気馴染めず、苦勞している様子が窺えました。他事業所の方が挨拶を交わすと少しずつ緊張も解け、名刺交換を交わすことができました。懇親会の終盤では来年度が東京開催ということで私を含めた4名の町田通勤寮参加者が壇上に上がり、東京開催のアピールを行いました。

スピーチフォーラムinとちぎはこれを以て閉幕となり、翌日から来年度の東京開催に向けて動くこととなります。1年と言っても、あっと言う間です。この貴重な体験を生かし、来年度の東京開催を「成功」という二文字で終わることができるよう頑張っていきたいと思えます。

趣味分科会

主任支援員 武智 里峰
『趣味について』の分科会に参加させて頂きました。利用者約五十名の参加。一人一人自分の趣味について発表しました。休日にカラオケに行く人、スポーツをやる人、買い物をする人、アイドルの追っかけをする人等それぞれ趣味を持ち、楽しみ、仕事で一週間頑張った分、自分へのご褒美として趣味を満喫し、また一週間頑張る…を繰り返して、自分のモチベーションを保っているようです。

テーマ通り、趣味を話し、聞き、考える…。自分以外の人の趣味を聞くことができ、色んな趣味がある事と、また別の趣味を持つとうと考えた人の中にはいる様子でした。短い時間の分科会でしたが、利用者の皆さんにとっては充実した時間だったと思います。今後も、趣味を充実させ、安定し

た就労が出来る事を願っております。

私の仕事と通勤寮生活(発表原稿)

町田通勤寮自治会会長 橋本 恭輔

町田通勤寮では自治会の会長を務めています。株式会社成城石井セントラルキッチンで働いています。皆さんはスーパーマーケットの成城石井をご存じですか。同社は「食にこだわり、豊かな社会を創造する」を経営理念とした高い品質の商品を売っているスーパーマーケットです。栃木県には、宇都宮駅のペオに成城石井があります。皆さんは行ったことがありますか。趣味は体を動かすことで、特にサッカーやバスケットボールを使うスポーツが得意です。通勤寮では一人部屋を使っており、部屋の中でダンベルを使って体を鍛えています。

私は、南大沢学園出身です。在学中二週間成城石井で実習しました。他には、保険会社の喫茶店や飲食店での実習がありました。実習の期間が短かったので仕事の内容を覚えるのが大変でした。でも第一希望だった成城石井から内定をいただいたときは、嬉しかったです。

次に仕事の内容について説明します。私は、成城石井の工場につとめているので、成城石井のお店に並んでいるお弁当やお総菜などの前処理作業をしています。今は野菜室所属なので、主に野菜を切ったり、皮をむいたりしています。マイナス20度くらいの冷凍室と作業室を往復するのが大変です。

2014年4月に就職し仕事が始まりました。入社初日にタイミング悪くインフルエンザにかかってしまい、一週間休むことになってしまいました。4月の給与も一週間分少なくなってしまう、初日からついていませんでした。しかし、これ以外では一度も休んだことはなく、無遅刻・無欠勤で仕事を続けることができます。

またこの時期は、八王子の実家から南町田の職場に通っており、一時間以上かかったので通勤もたいへんでした。就職二年目に、兄が一人暮らしを始めたのをきっかけに、私も、将来の自立を考え、職場に近い町田通勤寮に入るようになりました。2年目になると仕事のスピードも速くなってきました。忙しくなってきましたが、落ち着いて仕事ができるようになりました。

入社して一年間はアルバイトでしたが、二年目にパート社員になりました。基本給も少し上がり、ボーナスもあるのでとても嬉しい気持ちになりました。大変だったことを話します。春夏秋冬季節によって、処理しないといけない野菜の量が変わります。またテレビで成城石井を取り上げていただく、売り上げが上がり、社員としては、嬉しいのですが、その分処理する野菜が増えるので大変でもあります。仕事していてうれしかったことは、私が工場内でいちばん若かったのですが、最近、一歳年下の先輩が出来たので良かったです。今の仕事のやりがいは、たくさん野菜を切ることです。切り終わるととても気持ちがいいです。秋は生のカボチャを一日80個くらい切ります。また玉ねぎをたくさん切る時は、目が痛くて大変ですが、最近は慣れてきて目が痛くなくなりました。

最後に将来の夢について話します。今は通勤寮で暮らしていますが、今年度中にグループホームに入りたいと思っています。もっと仕事で精進して、お金をため、20代のうちに一人暮らしをするのが夢です。そしてまだ海外旅行の経験がないので、アメリカのロサンゼルスに行ってみたくと思っています。これで発表を終わります。最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

成瀬地区防災訓練・福祉マラソン

支援員 新井 政暁

11月12日、南成瀬小学校にて地域防災訓練が行われました。消防署の方の指導のもと、消火栓を利用しての放水訓練、AEDや消火器使用の訓練などを行い、地域の方々と共に防災に関する様々な知識を得ることが出来ました。

町田通勤寮から参加した利用者さんのほとんどが、特別支援学校在校時、複数回にわたってAEDの使用体験・訓練を行ったことがあるとのことでした。AEDについて、私は今までに一度しか体験したことがなかったのですが、利用者さん、そして各教育機関の意識の高さを知り、見習わなければならないと感じられた一日でした。

☆☆☆

11月27日に第29回「心をつなげる福祉マラソン大会」が開催され、フクシアから1名、通勤寮からは3名の利用者さんが参加されました。

長年親しんだ皇居周辺から大島小松川公園及び荒川河川敷へとコース変更されて2回目の大会でしたが、大きな混乱もなく、競技はスムーズに進行しました。

3位までに入って、メダルを獲得された方はいらっしやいませندしてが、『無理をせず、ゆっくりマイペース』という大会のスローガン通り、各々自分のペースで楽しみながら、全員が無事完走することができました。走り終わった利用者さんが、ゴールを目指して頑張っている他の利用者さんに付き添い、励ます姿が見られるなど、小雨がばらついて気温は低かったのですが、終始あたたかく和やかな雰囲気で大会を過ごすことができました。

完走後、すぐに体を拭いたり着替えたりするなど、皆さん健康管理にし



すっかり務められていた姿が印象的でした。参加された皆さま、おつかれさまでした。

忘年会(東林バーベキュー)

支援員 浅田 恵理子

今年度は土日出勤の利用者さんが多いこともあり、今回より恒例行事であったボウリング大会をやめて、ゆっくりと東林バーベキューにて忘年会を行いました。

仕事の人も何名かいたので、毎回時間に間に合うかヒヤヒヤしましたが、参加者全員そろって送迎バスに乗り向かうことが出来てホッとしました。男性利用者の挨拶、乾杯で開始し一時間半と決められた時間の中で終始食に集中する人、お肉を焼くのに徹する人、他人任せの人、飲み物とデザートコーナーから組み合わせて自分流で楽しむ人も…

また、新しく入った方に優しく声をかけ、焼いたものを取り分けるなど行事を通して親睦を深める姿も見られ和やかな雰囲気、自治会長のユニフォームのある挨拶と共に忘年会を無事に終えました。



調理実習

栄養士・調理員 遠藤 小百合

昨年12月の調理実習もそうだったのですが、普段の食事でなかなか食べることの出来ない「鍋料理」を体験して欲しくて献立に取り入れられました。今年の鍋は味付けを中華風に、具材も手作りの餃子や春雨を入れて具たくさんのご馳走鍋に仕上げました。他にはふんわりした炒り卵を入れたニラともやしの炒め物、そしてクリスマスにちなんでパンケーキにフルーツとクリームでデコレーションをほどこしたケーキを作りました。参加してくれた利用者さんの中には今回が初めての方もいらして、真新しいエプロンに身を包み、ちよつとドキドキしながらも楽しそうに調理にチャレンジしていました。

コロコロとした一口餃子と手のひらサイズのたくさんさんのパンケーキ…女子力全開の「かわいい」料理が出来上がり、作られた方も大満足のようにでした。ご苦労様でした。中国では縁起の良い食べ物としてお正月に餃子を食べるそうです。このお正月に餃子鍋を作られてみてはいかがでしょう？餃子やスープに生姜やにんにくを入れれば身体があたたまって免疫力が上がり風邪を予防する効果が期待できます。

次回の調理実習は2月19日(日)を予定しております。今年度最後の調理実習になりますのでみなさまからのリクエストメニューも伺いながら献立を考えようと思います。どうぞお誘い合わせのうえご参加下さい。



町田通勤寮自治会レポート

支援員 植竹 雄太

11月・12月・1月の自治会の様子をお伝えします。今年度から多くの方の参加を呼び掛けるためロビーで役員会を行っています。それがだんだん見慣れた光景になってきました。ふらりと来て話し合いに参加する方、仕事の疲れで眠そうな方・・・色々な参加の仕方があるようです。

11月は終わったばかりのスピーチフォーラムを振りかえりました。また参加メンバーから感想を聞き、文集を作ることになりました。12月は新年会や防災講座での挨拶の担当等を決めました。1月は、来年度スピーチフォーラムの実行委員会が2月5日にあるので、事前準備を行いました。『光陰は矢の如し』と言います。少しずつ準備を進めていきましょう。

今後の予定

- 2月5日(日) 29年度スピーチフォーラム実行委員会(町田通勤寮)
- 2月15日(水)利用者オンブズマン(安河内 幹氏)
- 2月25日(土)防災講座(横浜市民防災センター見学)
- 3月12日(日)保護者会 13:45~
- 3月19日(日)地域生活講座(GH見学)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。町田通勤寮だより61号をお届けします。お楽しみいただけましたでしょうか。

今年成人を迎えられた方の多くが生まれた平成8年を振り返ってみました。政界ではムースで頭髪を固めた橋本龍太郎氏が総理を務めておられました。夏にはアトランタ五輪があり、柔道の野村忠宏選手の金メダルが記憶に新しいところです。田村亮子選手は惜しくも銀メダルでした。8月24日には体操界の若きホープ白井健三選手が誕生しています。暮れには在ペルー日本大使公邸占拠事件があり、テレビ中継を見守っていた記憶があります。また携帯型育成ゲーム「たまごっち」が流行っていたのも印象深いところです・・・あれから20年経ちましたが、通勤寮での生活で、どんな時代でも通用する「堅実さ」を身に付け、将来へ飛躍していただきたいと願います。

町田通勤寮だよりのバックナンバーは社会福祉法人つるかわ学園公式HPよりご覧になることができます。

(<http://tsurugaku.sakura.ne.jp/wp01/jigyoshotsukinryou/ryodayori/>)